

2023年 4月入学岡山大学大学院環境生命自然科学研究科（博士前期課程）

外国人留学生海外特別入試学生募集要項

【環境生命自然科学研究科 環境生命自然科学専攻（博士前期課程）アドミッション・ポリシー】

① 求める人材像

環境生命自然科学専攻（博士前期課程）では、岡山大学の求める人材像である「進んで課題解決に挑む実践力と、課題を見出す探求力、差異から学ぶ力、体系的かつ基礎的な専門力、さらには身近な事象への関心を持ち自ら学ぶ習慣を身に付けている人材」を基本として、次のような学生を求めています。

1. 人と自然の関わりに興味を持ち、地域や国際社会に貢献したいという強い意欲のある人
2. 専攻する学問分野の基礎を修得し、先端研究分野に挑戦する強い目的意識を持っている人
3. 旺盛な学習意欲を持ち、自ら考え、行動することのできる人
4. 研究面でリーダーシップを発揮し、国際的に活躍したいという強い意欲を持った人
5. 文明の持続的な発展を図るために必要な豊かな教養・倫理・専門性を有し、かつ国際的に活躍出来る語学力を有する人
6. 地球環境の持続的な発展や生命現象の解明のための科学的知見に基づく高度な専門性を身に付けたいとの強い意欲を持つ人
7. 専門分野以外の分野にも興味を持ち、幅広い知識と視野を修得しようという意欲を持った人

② 入学者選抜の基本方針

環境生命自然科学専攻（博士前期課程）では、専門分野に関する基礎学力を有し、かつ柔軟な発想や論理的思考、判断力、協調能力を持つとともに、専門分野の先端的な学術的知見を学ぶことに加え、専門以外の分野にも興味を持って知識や技術を修得し、専門分野や学際的分野の新しい課題の解決に挑戦しようとする意欲を持った人を募集します。各学位プログラムでは、専門科目等の筆記試験、書類審査、口頭試問により、入試方式（推薦入試・一般入試・社会人入試・外国人留学生特別入試）ごとに定めた基準や比重に従って専門的基礎学力・思考力・判断力・表現力・意欲を評価し、出身学部を問わず多様な学生を受入れます。

③ 入学者選抜試験

環境生命自然科学専攻（博士前期課程）では、下記の入学者選抜試験を実施し、多様な学生の確保を図るとともに、学位取得に向けた学修に必要な基礎学力等を確認します。

(1) 推薦入試

大学院進学を強く希望する学生を対象とした入試で、書類審査及び志望する教育研究分野ごとに口頭試問を課します。書類審査では受験時までに習得した専門性、キャリアプランなどについて、複数の教員が多面的に確認します。口頭試問では、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプランなどについて複数の教員が評価します。

(2) 一般入試

広く大学院進学希望者を対象とした入試で、書類審査及び志望する教育研究分野ごとに学力試験を課します。書類審査では受験時までに習得した専門性などについて、複数の教員が多面的に確認します。学力試験では、専門科目に関する知識、理解力等を総合的に評価します。

(3) 社会人入試

書類審査及び学力試験等〔筆記試験及び口頭試問〕を課します。書類審査では受験時までに習得した専門性、キャリアプランなどについて、複数の教員が多面的に確認します。口頭試問では志望する教育研究分野ごとに専門科目に関する知識、理解力等を総合的に評価します。

(4) 外国人留学生特別入試

書類審査及び学力試験等〔筆記試験及び口頭試問〕を課します。書類審査、口頭試問では受験時までに習得した専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応の状況や経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。学力試験の筆記試験では専門科目に関する知識、理解力等を総合的に評価し、口頭試問では志望する教育研究分野ごとに受験時までに習得した専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応の状況や経済状況などについて評価します。

(5) 外国人留学生海外特別入試

書類審査を課します。書類審査では志望する教育研究分野ごとに受験時までに習得した専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応の状況や経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
推薦入試	☆	書類審査 口頭試問	☆	口頭試問	◎	口頭試問
一般入試	◎	書類審査 筆記試験 口頭試問	☆	口頭試問	○	口頭試問
社会人入試	☆	書類審査 学力試験（筆記試験又は口頭試問）	◎	学力試験（筆記試験又は口頭試問）	○	学力試験（口頭試問）
外国人留学生特別入試	☆	書類審査 学力試験（筆記試験及び口頭試問）	◎	学力試験（筆記試験及び口頭試問）	○	学力試験（口頭試問）
外国人留学生海外特別入試	☆	書類審査	◎	書類審査	○	書類審査

(注) ◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

入学後の学位プログラムについて

この度、令和5年（2023年）4月に大学院環境生命自然科学研究科を設置することが認められました。

この学生募集要項では、下表中央の「入試実施単位（講座）」により入試を実施し、合格者が入学した後は、「入試実施単位（講座）」に対応した学位プログラムの教育課程に定める授業科目を履修することになります。

なお、以下の学生募集要項中では、「入試実施単位（講座）」を「講座」と記載します。

【博士前期課程】

専攻	入試実施単位（講座）	学位プログラム
環境生命自然科学	数理科学	数理情報科学
	物理科学	
	人間生態学	
	計算機科学	
	情報通信システム学	
	電気電子機能開発学	
	知能機械システム学	機械システム都市創成科学
	先端機械学	
	都市環境創成学	
	持続可能社会形成学 ※ (都市・交通計画学分野, 水質衛生学分野)	創成化学
	物質基礎科学	
	物質エネルギー学	
	応用化学	地球環境生命科学
	地球システム科学	
	農村環境創成学	
	環境生態学	
	持続可能社会形成学 ※ (廃棄物管理循環学分野)	
	生物機能化学	
	植物ストレス科学	
	植物機能開発学	
動物機能開発学		
生物科学		
分析地球惑星化学		
実験地球惑星物理学		

※持続可能社会形成講座の合格者は、受験時の講座における教育研究分野により学位プログラムが異なります。

項 目

- I 募集人員
- II 出願資格・入学資格審査
- III 出願手続・入学者選抜方法・合格発表・入学手続
- IV 出願書類の提出・問い合わせ先
- V 教員一覧

I 募集人員

専攻	講 座	募集人数	備考
環境生命自然科学	数理科学	今回は、募集を行いません。	◎
	物理科学		
	人間生態学	若干人	◆
	計算機科学	今回は、募集を行いません。	◎
	情報通信システム学		
	電気電子機能開発学		
	知能機械システム学		
	先端機械学		
	都市環境創成学	若干人	◆
	持続可能社会形成学 (都市・交通計画学分野, 水質衛生学分野)		
	物質基礎科学	今回は、募集を行いません。	◎
	物質エネルギー学	若干人	◆
	応用化学	今回は、募集を行いません。	◎
	地球システム科学		
	農村環境創成学	若干人	◆
	環境生態学		
	持続可能社会形成学 (廃棄物管理循環学分野)		
	生物機能化学		
	植物ストレス科学		
	植物機能開発学		
動物機能開発学			
生物科学	今回は、募集を行いません。	◎	
分析地球惑星化学			
実験地球惑星物理学			

指導教員の詳細情報は以下のホームページ及び「V教員一覧」をご確認ください。

◎・・・大学院自然科学研究科HP https://www.gnst.okayama-u.ac.jp/ja/profile/gnst_kyoin/

◆・・・大学院環境生命科学研究科HP <https://www.gels.okayama-u.ac.jp/profile/index.html>

- (1) 一部教員は、授業のみ担当し研究指導を行わない場合もありますので、あらかじめ志望指導教員に連絡し、指導の可否を確認してください。
- (2) 講座名は、募集要項作成時点での内容のため、変更になることがあります。

- (3) 志望指導教員の連絡先が不明の場合は、「IV 出願書類の提出・問い合わせ先」へメールでお問い合わせください。

Ⅱ 出願資格・入学資格審査

Ⅱ-1 出願資格

次の各号のいずれにも該当する者

- 1 次のいずれかに該当する者又は2023年3月までに該当する見込みの者
 - ① 日本の大学を卒業した者
 - ② 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
 - ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - ⑤ 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの
 - ⑥ 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- 2 日本国外に居住し、入学試験を受験するために渡日することができない外国人(日本国籍を有する者及び日本の永住権取得者を除く)
- 3 大学院入学までに、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」の在留資格を取得できる見込みの者
- 4 出身学校から人物・学力ともに特に優秀である旨推薦された者
- 5 国内外の公的機関等による奨学制度・研修制度などの選考に合格した者又は指導予定教員の受入内諾がある者

(注1) 出願資格1-⑤に定める「大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者」とは、出願資格の審査として本研究科で書類審査を行い合格した者とします。

(Ⅱ-2 出願資格における個別の入学資格審査をご覧ください。)

(注2) 学位授与見込みで出願した者で、2023年3月までに学位が授与されない者は入学を取り消します。

(注3) 出願資格2に定める「日本国外に居住し、入学試験を受験するために渡日することができない」には、出願時に日本国内に滞在する者であって、2022年12月末までに滞在期間が終了し日本国外へ出国するものを含めず。

詳細は、「Ⅳ 出願書類の提出・問い合わせ先」へ問い合わせてください。

Ⅱ-2 出願資格における個別の入学資格審査

前記Ⅱ-1の出願資格1-⑤における入学志願者は、出願の前に入学資格認定のための個別の入学資格審査を行いますので、「(1)入学資格審査書類提出期間」内に必着するように、(2)の入学資格審査出願書類提出してください。

(1) 入学資格審査書類提出期間

募 集	提出期間
2023年4月入学	2022年10月25日(火)～2022年10月26日(水)

(2) 入学資格審査出願書類

入学資格審査出願に必要な書類等	適 用
①出願資格認定申請・調書	本研究科所定の様式を使用してください。
②研究業績又は研究計画・経過報告書	本研究科で希望している研究分野に関連するこれまでの研究業績の一覧又は研究計画・経過を任意様式にまとめたものを提出してください。
③成績証明書(最終学歴)	最終出身学校長が作成したものを提出してください。
④卒業証明書(最終学歴)	最終出身学校長が作成したものを提出してください。

(注1)．上記の書類は、原則として英語で作成してください。(母国語が英語以外の場合は、英訳を添付してください)

(注2)．上記の書類①は、本研究科所定様式の使用を原則としますが、本研究科が許可した場合に限り、必要事項が記載された任意様式の使用が可能です。

(注3) 入学資格審査結果は、指導予定教員を通じて通知します。

募 集	入学資格審査結果通知予定日
2023年4月入学	2022年11月22日(火)

(3) 入学資格審査書類提出先

「Ⅳ 出願書類の提出・問い合わせ先」へ提出してください。

Ⅲ 出願手続・入学者選抜方法・合格発表・入学手続

入学志願者は、出願前のなるべく早い時期に志望指導教員と連絡を取り、
研究内容等について相談してください。

Ⅲ-1 出願手続

(1) 出願方法

入学志願者は、以下の①～③の手続きをすべて行ってください。

①出願書類作成の前に、本研究科での指導予定教員とメール等により直接連絡を取り、入学後の研究・教育について相談し、受験の承諾を得て、「指導予定教員受入内諾書」の写しを受領してください。研究科の指導予定教員は「V教員一覧」を参照ください。

②指導予定教員の承諾を得た後、入学検定料を支払ってください。(支払い不要の者を除く。)

③出願書類等のすべてを、「(2) 出願期間」内に必着するよう郵送してください。

(2) 出願期間

募 集	出願期間
2023年4月入学	2022年11月24日(木)～2022年12月14日(水)

(3) 出願書類提出先

「Ⅳ 出願書類の提出・問い合わせ先」へ提出してください。

(4) 出願上の注意

- ① 出願後の出願書類等の記載内容についての変更は認められません。
- ② 出願書類受理後は、いかなる理由があっても返却しません。
- ③ 出願書類に不備があるもの及び入学検定料に不足のあるものは受理しません。
- ④ 出願書類等の記載内容に虚偽の記載があった場合は、入学後においても入学が取り消されることがありますので注意してください。
- ⑤ 改姓(名)前の証明書を使用する場合の提出書類について、入学願書の氏名と異なる旧姓(名)の記載された証明書も使用できますが、その場合は、改姓(名)の日付と新旧姓(名)を入学志願者本人が記入した文書(様式は任意です。)を添付してください。

(5) 出願に必要な書類等

出願に必要な書類等	摘 要
①入学願書・履歴書・写真	<p>本研究科所定の様式を使用してください。</p> <p>写真は、縦4 cm×横3 cm、上半身、無帽、正面向きで出願以前3か月以内に撮影したものを、「入学願書」の所定欄に貼り付けてください。貼る前に、写真の裏面に国籍及び氏名を記入してください。</p>
②入学検定料	<p>30,000円（手数料が別に必要です。）</p> <p>出願期間最終日の17:00（日本時間）までに次の「入学検定料支払の流れ」をご確認の上、「入学検定料支払サイト」よりお支払いください。</p> <p>なお、支払い方法は必ず「クレジットカードでの支払い」を選択して下さい。その他の支払い方法は海外からのご利用ができません。</p> <p>入学検定料の支払後に、「入学検定料支払証明書」を印刷し、所定用紙の所定欄へ貼付してください。</p> <p>入学検定料支払の流れ 英語版： https://www.gels.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/kenteiry/oversea_eng.pdf</p> <p>入学検定料支払サイト 英語版：https://e-apply.jp/n/okayama-payment-eng</p> <p>以上の方法による支払ができない場合は、「IV 出願書類の提出・問い合わせ先」にお問い合わせください。</p> <p>国費外国人留学生の入学志願者は原則として入学検定料の納入は不要です。</p> <p>入学検定料の返還について 次の場合を除き、いかなる理由があっても振込済の入学検定料は返還しません。</p> <p>ア 入学検定料を支払ったが出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合 イ 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合</p>
③出身大学の卒業(見込)証明書	<p>出身大学が作成したものを提出してください。</p>
④出身大学の成績証明書	<p>出身大学が作成したものを提出してください。</p>
⑤提出論文等の写し	<p>(1) 学士論文要旨又はそれに代わる研究論文要旨（英語） なお、該当がある場合は、 (2) 学士の学位取得後の研究業績リストと、そのうち代表的研究論文の要旨1点又は2点</p>

⑥研究計画書		本研究科所定の様式を使用してください。
⑦英語能力を証明できるもの (TOEIC®, TOEFL-iBT®等)		TOEIC®, TOEFL-iBT®等の成績がない場合は、出身大学等による英語能力証明書 (母国語が英語の場合は、出身大学院等での教育を英語で受けたことを証明してもらってください。)
⑧パスポートの写し又は 本国の戸籍謄本・ 市民籍の証明書		パスポートの名前、生年月日等が確認できるページの写しを提出してください。 パスポートを所持していない場合、本国において取得した戸籍謄本又は市民籍等の証明書を提出してください。
⑨学長宛推薦書 (2種類)	様式1	本研究科所定の様式を使用してください。 推薦書の作成者については、各様式に記載されている説明を確認してください。
	様式2	
⑩国内外の公的機関等による 選考の合格を確認できるもの		Ⅱ-1 出願資格 5に定める「国内外の公的機関等による、奨学制度・研修制度などの選考に合格した者」は、合格通知・採用通知等の(写)を提出してください。
⑪指導予定教員受入内諾書		受入指導教員へ依頼し、指導予定教員が作成したものの(写)を提出してください。

(注1) 提出書類は、すべて規格を統一(A4判が望ましい)し、タイプを用いてください。

(注2) 提出書類が完全に揃っていない場合、完全かつ正確に記載されていない場合、又は提出期限が過ぎたものについては、受理しません。

(注3) 上記の書類は、⑪を除き、原則として英語で作成してください。

(英語以外の母国語の場合は、英訳を添付してください。)

(注4) 提出書類①, ③, ④, ⑥, ⑨は原本の提出が必要です(ただし, ③, ④は発行元により原本証明を受けたものでも可)。

Ⅲ-2 入学者選抜方法等

入学者の選抜は、出願書類等により書類審査を行い、可否を決定します。

Ⅲ-3 合格者発表

募 集	合格発表日
2023年4月入学	2023年1月27日（金）

合格者には、上記合格者発表日付で、合格通知書等を、本人あてに送付します。

Ⅲ-4 入学手続

(1) 入学手続方法

合格者は、入学手続を完了することにより、入学が許可されることになります。

詳細は合格通知書とともに、指導教員から別途連絡します。

(2) 入学手続期間

入学手続期間については、次のとおり予定しています。

入学時期	入学手続期間
2023年4月入学	2023年3月13日（月）～2023年3月14日（火）

Ⅲ-5 その他

(1) 入学料及び授業料（私費外国人留学生のみ該当 国費外国人留学生は不要です。）

入学料 282,000円〔予定額〕

授業料（半期分）267,900円（年額）535,800円

※入学時及び在学中に改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用されます。

(2) 修学援助・留学生宿舎

私費外国人留学生の方は、修学援助の一環として、入学料免除・徴収猶予、授業料免除及び奨学金等の制度があります。

学業成績及び収入状況等が条件を満たせば、入学料免除・徴収猶予及び授業料免除の申請を行い、全額又は半額の免除を受けられる場合があります。

学業成績及び収入状況等が条件を満たせば、各種奨学金に申請を行い、奨学金の支給を受けられる場合があります。

また、岡山大学には留学生のための宿舎として、桑の木留学生宿舎、福居留学生宿舎、国際交流会館、国際学生シェアハウスがあり、いずれも、津島キャンパスから徒歩圏内にあります。

【奨学金、宿舎等に関する問い合わせ先】

〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1

岡山大学国際部 <https://intl.okayama-u.ac.jp/en/support/>

奨学金に関すること： dde7046@adm.okayama-u.ac.jp

宿舎に関すること： housing@cc.okayama-u.ac.jp

(3) 注意事項

留学生は渡日に先立ち、日本の風土、習慣、気候、大学の状況について、あらかじめ調べておくことが望まれます。

教育研究活動で使用する言語は日本語を主として進めます。英語による指導を希望する場合は、予め指導希望教員と相談してください。

日常生活では日本語が必要になりますので、日本語についても勉強しておくことが望まれます。

岡山大学では、留学生のための日本語コースを設けていますので、希望者は受講してください。

(4) 個人情報の利用目的

提出された出願書類等及びこれらに記載されている個人情報は、入学者選抜に関する業務に使用します。

ただし、入学者については、入学願書に記載された氏名、性別、生年月日、現住所、出身学校等の個人情報を、本学学務システムの学生基本情報への登録データとしても利用します。

また、合格者の受験番号、氏名（漢字・カナ）の個人情報については、本学授業料債権管理事務システム及び授業料免除事務システムの業務にも利用します。

なお、入学料免除の申請、入学料徴収猶予の申請、授業料免除の申請及び各種奨学金等への申請があった場合は、申請者本人の入学試験成績及び学業成績証明書を、入学料徴収猶予等の業務に係る学力判定処理に利用することがあります。

(5) 安全保障輸出管理について

岡山大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理制度により、「岡山大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生等（日本国外からの奨学金を受給する日本人学生を含む。）の受入れに際し厳格な審査を実施しています。「外国為替及び外国貿易法」等により規制されている事項に該当する場合は、入学を許可しない場合や希望する研究活動に制限がかかる場合があります。

参考（経済産業省ホームページ）URL； <https://www.meti.go.jp/policy/anpo/gaiyou.html>

IV 出願書類の提出・問い合わせ先

お問い合わせは、以下の項目を記載の上、電子メールでお送りください。

- (1) 氏名
- (2) 大学・学部等名（現在の所属あるいは出身）
- (3) メールアドレス
- (4) 現在学んでいる専門分野
- (5) 取得済みの学位
- (6) 志望する課程（博士前期課程／後期課程の別）
- (7) 相談を希望する専攻分野（講座名）および教員名
- (8) 相談内容（具体的に記載してください。）

講 座 名	出願書類の提出先・問い合わせ先
都市環境創成学	岡山大学自然系研究科等 環境理工学部事務室 教務担当 〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 MAIL : pgg8420@adm.okayama-u.ac.jp
農村環境創成学	
人間生態学	
持続可能社会形成学	
物質エネルギー学	
生物機能化学	岡山大学自然系研究科等 農学部事務室 教務学生担当 〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1 MAIL : qgg8286@adm.okayama-u.ac.jp
植物ストレス科学	
植物機能開発学	
動物機能開発学	
環境生態学	
数理科学	今回は募集を行いません
物理科学	
物質基礎科学	
生物科学	
地球システム科学	
先端機械学	
知能機械システム学	
電気電子機能開発学	
計算機科学	
情報通信システム学	
応用化学	
分析地球惑星化学	

V 環境生命自然科学研究科 教員一覧 (博士前期課程)

※本教員一覧は、2022年5月1日時点の内容のため、
2023年度に変更となる場合があります。

※問い合わせ先の詳細は、学生募集要項
「IV出願書類の提出・問い合わせ先」でご確認ください。

※の記載のある講座については、今回は募集を行いません。

所属教員等一覧（2022年 5月 1日現在）

☆印の教員は2023年3月31日退職予定です。
 ◎印の教員は2024年3月31日退職予定です。
 ◆印の教員は2025年3月31日退職予定です。

講座	教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
数 理 科 学 ※	代数学	整数論, 環論, 表現論, 代数幾何学, 組合せ論, 数理論理学の教育, 研究	寺井 直樹 教授 石川 雅雄 教授 ◎ 田中 克己 教授 ☆ 鈴木 武史 准教授 伊藤 敦 准教授 石川 佳弘 助教
	幾何学	微分幾何学, 多様体構造, 数理論理学, 位相幾何学, 位相的場の理論, 位相空間論の教育, 研究	近藤 慶 教授 秦泉寺 雅夫 教授 鳥居 猛 教授 門田 直之 准教授
	解析学	微分方程式論, 確率論, 関数解析学, 力学系, 統計学など解析学の視点からの数理論理学に関する諸問題の教育, 研究	谷口 雅治 教授 大下 承民 教授 上原 崇人 准教授 田口 大 准教授
物 理 科 学 ※	量子構造物性学	強相関係物質や低次元物質が外場下で示す量子物性と構造との相関に関する研究	野上 由夫 教授 近藤 隆祐 准教授
	量子物質物理学	物質の量子効果やスピン系の時空間での相関を, 磁性体における物性測定により研究	味野 道信 教授
	機能電子物理学	物質を構成する電子集団が示す新物性を解析し, 物質構造や量子相関を解明する実験的研究	池田 直 教授 神戸 高志 准教授
	極限環境物理学	極低温, 高圧, 強磁場の極限環境下で現れる特異な磁性, 超伝導に関する実験的研究	小林 達生 教授 荒木 新吾 准教授 秋葉 和人 助教
	低温物性物理学	核磁気共鳴(NMR)法を用いた超伝導や電子相関, トポロジカル量子現象などに関する研究	鄭 国慶 教授 川崎 慎司 准教授 俣野 和明 助教
	量子物性物理学	量子多体系で実現する非従来型超伝導や新奇電子状態を対象とした凝縮系物理学実験に関する研究	笠原 成 教授 木原 工 准教授
	界面電子物理学	表面・界面に特異な原子配列, 化学結合状態及び物性を実験的に解明	横谷 尚睦 教授 村岡 祐治 准教授 小林 夏野 准教授
	物性基礎物理学	物性理論, 高エネルギー固体分光理論の開発, 量子スピン系の理論的研究	岡田 耕三 教授 ◎ 西山 由弘 助教
	量子多体物理学	量子多体系における非従来型超伝導, スピン輸送, 磁性, 計算物質科学, 密度汎関数理論などの物性理論研究	市岡 優典 教授 JESCHKE Harald Olaf 教授 安立 裕人 准教授 大槻 純也 准教授
	宇宙物理学	宇宙マイクロ波背景放射観測による宇宙の起源の研究, 超伝導技術を用いた新規な宇宙・素粒子実験の研究	石野 宏和 教授 STEVER Samantha Lynn 助教
	素粒子物理学	素粒子ニュートリノの実験的研究による物質の構造・宇宙の歴史の解明	小汐 由介 准教授
	極限量子物理学	量子光学・原子物理学の先進技術を駆使したニュートリノ物理学を基軸とする宇宙・素粒子分野の実験的研究	吉村 浩司 教授 吉見 彰洋 准教授
	量子宇宙基礎物理学	原子・分子・光科学の手法を応用した, 現宇宙の物質・反物質非平衡の起源探索や, 標準模型を超える素粒子像の探求に関する実験的研究	植竹 智 准教授
人 間 生 態 学	数理データ活用学	データの解析および活用のための位相幾何学と各種データ科学に基づく数理的基盤構築およびその応用に関する教育研究を行う。	大林 一平 教授
	応用数理学	代数学, 確率論における数学的对象や構造についての教育研究を行う。	早坂 太 准教授
	数理モデル解析学	自然現象を記述する数理モデルを解析する数学的手法と, その応用に関する教育研究を行なう。	佐々木 徹 教授 小布施 祈織 准教授
	現象数値解析学	気象・環境・工学等に関わる種々の流体现象を, 数値シミュレーションやデータ駆動型計算によって解析するための理論と手法, 及びその実践に関する教育研究を行う。	石原 卓 教授 関本 敦 准教授
	環境統計学	環境問題に関するデータを解析するために必要な数理統計学理論及びコンピュータ上で解析を実行するための計算機統計学についての教育研究を行う。	坂本 亘 教授 (環*)
	環境調査実験解析学	環境に関わる現象解明のための調査や実験計画の方法及び環境データに特徴的に現れる時空間多変量データに対する統計的解析の理論と応用についての教育研究を行う。	飯塚 誠也 教授 石岡 文生 准教授 高岸 茉莉子 講師
	環境疫学	環境と健康障害に関する, 科学的評価法について主として疫学的手法を活用して研究し, 環境要因と健康障害との因果関係を推定する基礎的方法論についての教育研究を行う。	津田 敏秀 教授 ◎

*坂本亘教授は, <植物ストレス科学講座>に同姓同名の教授がいますので, 連絡をとる際は注意してください。

講座	教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
計算機科学 ※	計算機工学	計算機の基盤となるハードウェアとソフトウェアの技術	山内 利宏 教授 渡邊 実 教授 乃村 能成 准教授 渡邊 誠也 助教
	パターン情報学	パターン認識・理解に関する基礎理論及び、視覚情報処理・言語情報処理	諸岡 健一 教授 竹内 孔一 准教授
	知能設計工学	ウェブ情報検索、ウェブマイニング、電子図書館、及びストリーム配信や知能応用	太田 学 教授 後藤 佑介 准教授 上野 史 助教
	知能ソフトウェア基礎学	知能計算の基礎理論と応用、数値情報学、ソフトウェア工学	高橋 規一 教授 門田 暁人 教授 YÜCEL Zeynep 准教授 笹倉万里子 助教 右田 剛史 助教
情報通信システム学 ※	モバイル通信学	移动通信のシステム構成技術、無線リンク設計法に関する研究	上原 一浩 教授 富里 繁 准教授
	マルチメディア無線方式学	マルチメディア無線通信方式実現のための信号伝送技術に関する研究	田野 哲 教授 俣 亜飛 助教
	分散システム構成学	分散システムの構成技術およびアプリケーションに関する研究	船曳 信生 教授 栗林 稔 准教授
	光電磁波工学	光・電子回路デバイスとシステムの電磁的性質を考慮した設計法と制御法	豊田 啓孝 教授 五百旗頭 健吾 助教
	情報セキュリティ工学	コンピュータおよびネットワークのセキュリティ技術に関する研究	野上 保之 教授 日下 卓也 准教授 小寺 雄太 助教
	ネットワークシステム学	コンピュータネットワークシステムの設計技術と制御技術に関する研究	福島 行信 准教授
	電力エネルギーネットワーク工学	再生可能エネルギーを用いた電力システムの制御と運用に関する研究	高橋 明子 准教授
電気電子機能開発学 ※	超電導応用工学	最新の超電導材料技術と超電導工学を活用した応用超電導に関する研究	金 錫範 教授 植田 浩史 准教授 井上 良太 助教
	電力変換システム工学	パワーエレクトロニクス・電磁界解析を応用した電力変換システムの研究	平木 英治 教授 梅谷 和弘 准教授 石原 将貴 助教
	電動機システム工学	電動機の高性能化と電動機制御に関する研究	竹本 真紹 教授 綱田 練 助教
	電子制御工学	組み込み系・電子制御系の高機能化と省エネ設計、通信遅延等の分布定数要素を含む物理系のモデリングと制御に関する研究	今井 純 准教授
	波動回路学	マイクロ波・ミリ波回路及びアンテナの解析・構成とその応用	佐藤 稔 准教授
	ナノデバイス・材料物性学	太陽電池などエネルギー分野・ナノテクノロジーに応用するためのナノ材料やナノデバイスの創成と、新たな材料物性の発現・制御に関する研究	林 靖彦 教授 山下 善文 准教授 西川 亘 助教 鈴木 弘朗 助教
	マルチスケールデバイス設計学	電子・原子からマクロな電磁・音響特性までの多階層解析手法による新機能デバイスの設計	鶴田 健二 教授 三澤 賢明 助教
	光電子・波動工学	フォトニクスデバイス及び高周波波動利用デバイスの研究と応用	深野 秀樹 教授 ◆ 藤森 和博 准教授

講座	教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
知能機械システム学 ※	知的システム計画学	大規模システムのモデル化、解析、および最適かつ安全な運用のための知的システム計画に関する基礎理論と工学応用についての研究・教育	西 竜志 教授 佐藤 治夫 准教授 劉 子昂 助教
	適応学習システム制御学	適応学習機能を有する知的制御システム設計に関する研究・教育	松野 隆幸 教授 戸田雄一郎 助教
	知能システム組織学	生産システムの改善や人に優しいものづくりのために、認知工学、人間工学からアプローチするための総合的研究・教育	村田 厚生 教授 ◎ 下岡 綜 助教
	生産知能学	生産活動に伴う各種不確実性のもとで、適正に意志決定を行うための問題のモデリング並びにモデルの解法に関する研究・教育	有菌 育生 教授 ◎ 柳川 佳也 准教授
	知能機械制御学	ロボットなど各種知能機械の効率的な設計・制御と応用についての研究・教育	平田 健太郎 教授 中村 幸紀 講師
	システム構成学	アクチュエータやセンサ等機能デバイスと、そのシステム応用についての研究・教育	神田 岳文 教授 脇元 修一 准教授 山口 大介 助教
	メカトロニクスシステム学	メカトロニクスの要素技術およびシステムの設計、その計測と制御手法に関する研究・教育	真下 智昭 教授 芝軒 太郎 准教授 永井 伊作 助教
先端機械学 ※	構造材料学	材料の構造、物性、機能、評価並びに組織制御の研究と教育	岡安 光博 教授 竹元 嘉利 准教授 荒川 仁太 助教
	応用固体力学	固体力学の基礎と応用、固体材料の変形及び損傷に関する実験及び解析	多田 直哉 教授 上森 武 准教授 坂本 惇司 助教
	機械設計学	機械装置・要素の強さ・機能設計及びこれらの高性能化と評価に関する研究・教育	藤井 正浩 教授 塩田 忠 准教授 大宮 祐也 助教
	特殊加工学	新しい加工原理に基づき、精密微細加工技術の開発を行うための研究と教育	岡田 晃 教授 岡本 康寛 准教授 篠永 東吾 助教
	機械加工学	機械加工技術の高性能化・高精度化・高品質化・知的自動化・環境低減化の教育・研究	大橋 一仁 教授 児玉 敏幸 講師 大西 孝 助教
	流体力学	流れと渦構造、流体エネルギーの効率的利用、マイクロな流れ、高速気流、飛行体まわりの流れ等に関する教育・研究	河内 俊憲 教授 鈴木 博貴 准教授 田中 健人 助教
	伝熱工学	熱エネルギー貯蔵・輸送、新冷凍空調システムに関する基礎・応用研究と教育	堀部 明彦 教授 山田 寛 講師 磯部 和真 助教
	動力熱工学	熱機関の燃焼現象、熱効率、環境適合化に関する総合的研究	河原 伸幸 教授 小橋 好充 准教授 坪井 和也 助教
都市環境創成学	木質構造設計学	これまで、鋼構造、鉄筋コンクリート造が主体であった中規模建築まで対象とし、木質構造を設計するための構造理論、構造技術、解析技術に関する研究教育を行う。	福本 晃治 准教授
	耐震構造設計学	地震に対する構造物の耐震、免震、制震に関する教育研究、風や水流による構造物の振動現象やそれを活用した風力発電・潮流発電による再生可能エネルギー技術に関する教育研究を行う。	比江島 慎二 教授 アルワジャリ ハモード アハメド 准教授
	鋼構造設計学	インフラ構造物の先進的な施工方法あるいは長寿命化のためのメンテナンスに関する事象を対象として、計算機を利用した力学・物理・化学現象の解明とその実験的証明に関する研究教育、あるいは風や水流による鋼構造物の振動現象やそれを活用した風力発電・潮流発電による再生可能エネルギー技術に関する教育研究を行う。	西山 哲 教授 木本 和志 准教授
	水工学	自然と共存可能で多様な水域環境の創成に係わる河川、海岸域における水の流動解析と各種水工構造物の水理設計法についての教育研究を行う。	前野 詩朗 教授(特任) 吉田 圭介 准教授 赤穂 良輔 准教授
	地盤・地下水学	地震、豪雨、洪水による地盤災害の軽減や建設工事などに係わる地盤、地下水、土構造物の挙動解析および調査技術についての教育研究を行う。	竹下 祐二 教授 ◎ 小松 満 教授
	建築設計学	現代的な建築空間とその設計手法の関係を考察すると共に、その土地の歴史や環境、地域社会、人々の暮らしと持続的に融合する建築デザインについての実践及び、教育研究を行う。	川西 敦史 准教授
	建築計画学	より良い建築都市空間を創出するための建築計画手法・建築関連規定、都市計画手法・法制度、都市デザイン手法、空間計画手法、まちづくり手法、参加・合意形成手法などについての教育研究を行う。	堀 裕典 准教授
	木質材料学	再生産可能な木材を基に、様々なエレメントに変換するとともに再構成してつくる新たな木質材料の開発およびこれまでにない接合方法の開発などを行い、日本から発信する木造建築のイノベーションを目指す教育研究を行う。	中村 昇 教授
	コンクリート構造設計学	リサイクル性、環境負荷低減性等を考慮した建設材料及びコンクリート構造物の合理的で信頼性に富む設計手法についての教育研究を行う。	綾野 克紀 教授 藤井 隆史 准教授
	都市・建築環境学	持続可能な地球を維持しつつ、快適な都市・建築環境を実現するために、これから構築していくべきエネルギーシステムの在り方やその利用に関わるリテラシーを明らかにするための教育研究を行う。	鳴海 大典 教授

講座	教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
物質基礎科学 ※	構造化学	分光法及び回折法による分子並びに固体の構造とその物理的・化学的性質の解明	後藤 和馬 准教授
	分光化学	不安定分子および複合分子の振動回転スペクトルの研究	唐 健 教授
	反応有機化学	新規な π 系化合物の合成, 光反応性並びに物性に関する研究	岡本 秀毅 准教授
	無機化学	機能的無機化合物の合成(開発), 構造, 性質, 反応性の研究	大久保 貴広 准教授
	錯体化学	遷移金属及びランタノイドを含む金属錯体の合成, 構造, 物性及び反応性に関する教育と研究	鈴木 孝義 教授
	界面化学	二次元層状物質を基礎とした新規な超伝導物質ならびに電子デバイスの開拓に関する研究	久保園 芳博 教授 ◆ 後藤 秀徳 准教授 江口 律子 講師
	理論物理化学	液体・溶液・界面の構造・相平衡・相転移に関する理論的研究	甲賀 研一郎 教授 墨 智成 准教授
	理論化学	凝集系の構造とダイナミクスに関する理論と計算機シミュレーションによる研究	松本 正和 准教授
	有機化学	天然及び類縁生理活性物質の合成に関する研究	門田 功 教授 高村 浩由 准教授
	機能有機化学	有機金属化学に基づく効率的物質変換法の開発と機能的有機材料合成への応用に関する研究	西原 康師 教授 森 裕樹 助教 田中 健太 助教
	分析化学	物質の動的挙動, 自然界・新規材料における微量物質の化学的挙動解明のための分析化学研究	金田 隆 教授 武安 伸幸 准教授
	有機合成化学	天然ヘテロ環化合物及び類縁体の合成に関する研究	花谷 正 教授 ◆
	ナノ化学	光機能的無機ナノ粒子の開発とその応用に関する研究	藤原 正澄 准教授
	表面物理化学	固体表面における化学反応とエネルギー変換過程の理解と制御に関する研究	山方 啓 教授
	理論計算化学	生体分子集合系やソフトマテリアルの理論及びシミュレーションによる研究	篠田 渉 教授
物質エネルギー学	セラミックス材料学	省資源, 省エネルギーに資する機能的セラミックス材料の開発, 廃棄物から有価元素を回収し化学肥料などとして再利用する処理プロセスの開発など, グリーンイノベーションに関する教育研究を行う。	難波 徳郎 教授 紅野 安彦 准教授
	無機機能材料化学	環境浄化及びクリーンエネルギーに関連する機能的材料並びに廃棄物の再資源化に関するプロセス技術についての教育研究を行う。	亀島 欣一 教授 西本 俊介 准教授
	有機機能材料学	グリーンイノベーションのための環境適応型有機機能材料を開発し, 人工光合成, 太陽電池, 光触媒, あるいはナノ医療を可能とすることを旨とし, 材料の分子設計及び合成法について光化学, ナノ炭素化学, 有機典型元素化学, 構造有機化学, そして, 分子集合体化学などを駆使した多角的な教育研究を行う。	田嶋 智之 講師
	環境高分子材料学	高性能や高機能に加え, リサイクル性や環境負荷低減性等を考慮した高分子材料の分子設計法とその効率的合成法についての教育研究を行う。	木村 邦生 教授 ◎ 山崎 慎一 准教授
	環境プロセス工学	環境工学の基礎となる物質が関与するプロセスの開発やその設計法及びグリーンケミストリーに基づく材料プロセスングについての教育研究を行う。	木村 幸敬 教授 島内 寿徳 准教授
	環境反応工学	環境調和型化学反応装置の設計・操作並びに持続可能なエネルギー資源確保のための触媒・固体取着剤の設計・開発に関する教育研究を行う。	ウッディン モハマッド アズハ 教授 福田 伸子 教授
応用化学 ※	無機材料学	無機固体材料の合成と微細構造及び電子・スピン制御を基礎とした高機能化と材料設計	藤井 達生 教授 狩野 旬 准教授 高橋 勝國 助教
	無機物性化学	固体内界面(粒界)や固-液界面での物質やイオン, 電子の移動を制御した新機能の創製	岸本 昭 教授 寺西 貴志 准教授 近藤 真矢 助教
	界面プロセス工学	異相界面や相分離などあらゆる界面を分子レベルで制御する方法論を構築してプロセス及びプロダクトをイノベーションする研究	小野 努 教授 渡邊 貴一 助教
	粒子・流体プロセス工学	化学プロセス中での粒子状固体材料に関わる諸現象の解明と, 粒子・粉体特性評価法および熟移動現象に関する研究	後藤 邦彰 教授 中曾 浩一 准教授 三野 泰志 助教
	バイオプロセス工学	非生理的環境下におけるタンパク質の応用とそれに関連する界面間, 物質間相互作用に関する研究	今村 維克 教授 石田 尚之 准教授 今中 洋行 助教
	合成プロセス化学	活性種化学, 触媒化学, マイクロ化学などを基盤とした合成プロセスに関する研究	菅 誠治 教授 光藤 耕一 准教授 佐藤 英祐 助教
	有機金属化学	金属-炭素結合を有する有機金属錯体や有機金属試剤を用いた高効率・高選択的な有機合成反応の開発に関する研究	三浦 智也 教授 山崎 賢 助教
	合成有機化学	協同的相互作用により卓越した分子認識・触媒・発光機能を示す有機分子を創成する研究	依馬 正 教授 高石 和人 准教授 前田 千尋 助教
	生物有機化学	生物活性物質の全合成, 有機触媒を利用した不斉合成に関する研究	坂倉 彰 教授 溝口 玄樹 准教授
	ヘテロ原子化学	電子移動反応場の設計制御を基盤とする新規分子変換法の開発に関する研究	黒星 学 准教授
	工業触媒化学	地球規模の課題解決へ向けた産業上の重要性が高い, 革新的な化学触媒法の研究・技術開発	押木 俊之 講師
	高分子材料学	高分子材料や複合材料の固体構造および形成原理の解明, 高機能材料の開発に関する研究	内田 哲也 准教授 沖原 巧 講師
	機能分子工学	有機小分子からナノカーボンや生体材料のような巨大分子に至る様々なスケールの材料の構造を原子レベルで制御し, 物性評価や新規機能を開拓する研究	仁科 勇太 准教授

講座	教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
地球システム科学 ※	岩石学	岩石圏構成物質の性質・成因及び地殻の形成・発展過程に関する鉱物学的、岩石学的研究	中村 大輔 准教授 野坂 俊夫 准教授
	地震学	地震の発震機構や地下構造に関する地震学的研究	竹中 博士 教授
	地球情報学	多次元地球情報データを用いた環境評価や地震予測に関する研究	隈元 崇 教授 山川 純次 助教
	地球惑星内部物理学	固体地球及び惑星の内部構造と進化に関する実験科学的研究	浦川 啓 教授 寺崎 英紀 教授
	地球化学	隕石及び地球を構成する物質に含まれる元素の移動及び循環に関する無機・生物地球化学的研究	井上 麻夕里 教授 山下 勝行 准教授
	大気科学	大気圏におけるエネルギー・水・物質循環過程に関する気候システム科学的研究	野沢 徹 教授 道端 拓朗 准教授
	惑星科学	地球型惑星の表層環境の形成と進化に関する理論、数値地球流体力学、観測による研究	はしもと じょーじ 教授
農村環境創成学	応用生態学	生物に対する人間活動の影響について生態学的視点から解明するとともに、生物多様性の保全や生物資源の持続的利用の観点から、絶滅危惧種や外来種を含む野生動物植物の適切な管理手法についての教育研究を行う。	中田 和義 教授 勝原 光希 助教
	土壌圏管理学	気圏と岩圏の間体として存在する土壌圏の有する機能や役割の定量的解明並びに人間活動に伴う土壌圏の状態変化の解明、その変化の修復方策を検討することにより、自然の再循環システムの平衡を踏まえた土壌圏の管理法についての教育研究を行う。	前田 守弘 教授
	生産基盤管理学	生物生産の基盤である農地を中心に、土層中における物質・エネルギーの移動を解明するとともに、土地の持続的利用を保障する生産性の高度化、生産基盤の改良と保全、環境への負荷の削減等の管理手法についての教育研究を行う。	森 也寸志 教授 辻本 久美子 助教
	地形情報管理学	地域空間は人間活動や自然環境に関する広範な情報を包含する。これらを空間情報技術を用いてデータベース化し、空間的分析やシミュレーションに基づき、地域の評価や計画を策定する方法についての教育研究を行う。	守田 秀則 教授
	農村環境水文学	植物の生育に最適な水分環境を創出するため、農地や流域の乾湿の程度を気象データから評価し、灌漑と排水の時期と量の決定法について、さらには地表面近傍での水・熱輸送についての教育研究を行う。	諸泉 利嗣 教授 ◆ 宗村 広昭 准教授
	流域水文学	流域における水循環機構並びに洪水や渇水などの流出機構を解明するとともに、それを基礎として、水文流出量の予測や人間活動に伴う水文環境の影響評価、水資源の合理的運用などについての教育研究を行う。	近森 秀高 教授 工藤 亮治 准教授
	環境施設設計学	地域・都市空間におけるコンクリートおよび土構造物、特に、食料生産に重要な役割を果たす水利構造物を対象に、循環型社会の形成に寄与するための性能照査型設計を、ライフサイクルエンジニアリングの立場から教育研究する。	西村 伸一 教授 珠玖 隆行 准教授
	環境施設管理学	施設構造物のみならずそれと周辺環境との調和を念頭に置き、環境施設設計学の理念に基づいて設計・施工された各種施設の本来の機能を十分に発揮させるために必要な施設の管理手法についての教育研究を行う。	柴田 俊文 准教授
	国際農村環境学	グローバル化が進む現代社会における開発と環境問題の関連性を、国内外の農村における現地調査に基づき社会経済的側面から解明するとともに、「持続可能な開発」を行う方策を、地域に住む人々の立場から考察するための教育研究を行う。	金 科哲 教授 本田 恭子 准教授
	環境経済学	経済社会開発や環境保全に関する制度政策の形成過程、および制度政策と実態との関連性を、国内外における現地調査をもとに、政治学および経済学的な視点から検討し、持続可能な社会を構築する方策を考察するための教育研究を行う。	生方 史教 教授
農村計画学	農山漁村を主な対象に、地域社会の維持発展や適切な資源管理、自然環境の保全を可能にする制度や取り組みについて社会科学的的手法を用いながらその効果・課題を解明するとともに、計画-実践のプロセスを通じて地域の改善を図る手法についての教育研究を行う。	九鬼 康彰 教授	
持続可能な社会形成学	都市・交通計画学	少子・高齢社会において、持続可能な都市を実現するため、安心・安全で活力のある都市と交通、環境やひとの生活に配慮した効率的な都市・交通計画やエネルギー低減の方法、景観や地域の独自性や歴史に沿ったまちづくりの施策について研究する。	橋本 成仁 教授 樋口 輝久 准教授 氏原 岳人 准教授
	廃棄物管理循環学	持続可能な循環型社会を形成するために必要な廃棄物の発生抑制、再生利用、適正処理・処分に関する技術、施策、評価手法等について教育研究を行う。	藤原 健史 教授 松井 康弘 准教授 哈布尔 (ハボル) 助教
	水質衛生学	衛生的で持続可能な都市環境を築くために、新しい水処理技術、環境中での物質の移動と生態系との関わりについて教育研究を行う。	水禮 英明 教授
環境生態学	緑地生態学	植物生理生態学及び植物個体群生態学の観点から植物群落の維持機構を解明し、緑地生態系の持続的利用に関する教育研究を行う。	坂本 圭児 教授 ☆ 三木 直子 教授 宮崎 祐子 准教授
	土壌環境管理学	森林及び緑地生態系における物質動態メカニズムを解明し、その保全及び修復手法の確立に関する教育研究を行う。	嶋 一徹 教授
	森林生態学	森林生態系の構造や機能、動態および維持機構について生態学と生物地球化学の側面から教育研究を行う。	廣部 宗 教授 兵藤 不二夫 准教授
	水系保全学	水系生物（主として貝類）の多様性の危機的状況を解説し、それらを保全するための理論と実際についての教育研究を行う。	福田 宏 准教授
	昆虫生態学	昆虫類の行動と生態について基礎と応用の視点から教育研究を行う。	宮竹 貴久 教授
	進化生態学	生物（主に昆虫）の形質が、自然選択や性選択を主な要因とする進化プロセスによって形作られたという視点にたつて環境と生物集団の関わりについての教育研究を行う。	岡田 賢祐 准教授
	生物生産システム工学	持続的かつ環境保全的な食料・生物生産の自動化、システム化を実現するための工学的アプローチについての教育研究を行う。	門田 克司 教授 難波 和彦 准教授
	資源管理学	農地資源、水資源、農村社会資源及び農村環境に関わる利用・保全・管理政策の立案に関する教育研究を行う。	駄田井 久 准教授
食料生産システム管理学	環境に配慮し、持続可能で安定した食料生産システムの構築を目指した政策提言についての教育研究を行う。	大仲 克俊 准教授	
生物機能化学	天然有機化学	天然由来の生理活性物質の探索・合成とその医薬業・食料生産などへの有効利用に関する教育研究を行う。	清田 洋正 教授 泉 実 准教授
	生理活性化学	さまざまな環境要因により変動する生命現象の制御に関係する食品機能成分や生理活性物質についてケミカルバイオロジー的視点からの教育研究を行う。	神崎 浩 教授 ◎ 仁戸田 照彦 教授
	糖鎖機能化学	分化・成長に関わる糖鎖機能の生化学的解析及び機能性糖鎖の食品・医薬品等への応用に関する教育研究を行う。	木村 吉伸 教授 ☆ 前田 恵 准教授
	微生物遺伝子化学	極限環境微生物や放線菌等の有用酵素の探索、立体構造と機能の解析及び臨床診断薬等への応用に関する教育研究を行う。	守屋 央朗 准教授 根本 理子 准教授
	食品生物化学	食品成分の栄養学的、生理学的機能の生化学的評価と食料科学的応用に関する教育研究を行う。	中村 宣督 教授
	生物情報化学	食料生産などへの利用に資するため、植物の環境ストレス応答と情報伝達機構の解明に関する教育研究を行う。	村田 芳行 教授 宗正 晋太郎 准教授
	微生物機能学	極限環境微生物の機能開発、環境適応機構の解析、有用物質生産並びに環境保全分野への利用に関する教育研究を行う。	田村 隆 教授 金尾 忠芳 准教授

講座	教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
植物 スト レス 科 学	植物遺伝生理解析学	植物の有用形質、特に光環境ストレス適応に関わる遺伝子と発現調節機構の生理学的な解析を行う。	坂本 亘 教授 (資*) 松島 良 准教授
	情報伝達機構解析学	環境の変化が植物の生育にどのように影響するかを、分子遺伝学的手法を用いて解析する。	平山 隆志 教授 森 泉 准教授 池田 陽子 准教授
	植物細胞分子生化学	植物の生育過程における細胞の生理機能や植物の有する多様性と環境ストレス耐性機能の生化学的解析を行う。	杉本 学 准教授
	植物ストレス制御学	ミネラルストレスに対する植物の応答反応や耐性機構を個体レベルから遺伝子レベルまで研究する。	馬 建鋒 教授 山地 直樹 准教授 三谷 奈見季 准教授
	植物分子生理学	乾燥や塩ストレス等への環境応答と適応機構を生理学・分子細胞学的に解明する。	且原 真木 教授 佐々木 孝行 准教授
	ウイルス分子生物学	自然環境中でおこるウイルスと植物宿主とのせめぎ合い・相互作用を分子生物学的に解析する。	鈴木 信弘 教授 近藤 秀樹 准教授
	植物-昆虫相互作用学	植物と植食性昆虫が自然環境下で共進化する中発達させた多様な植物の防御反応について解析する。	ガリス イバン 教授 新屋 友規 准教授
	植物-病原菌相互作用学	植物と病原菌の間でおこるせめぎ合い (相互作用) を分子レベルで解明する。	河野 洋治 教授
	植物環境微生物学	植物を取り巻く微生物についてその多様性と機能を解析する。	谷 明生 准教授 植木 尚子 准教授
	植物多様性解析学	植物のゲノム多様性解析及び環境適応解析と分子育種への応用に関する教育研究を行う。	佐藤 和広 教授 ◎ 最相 大輔 准教授 久野 裕 准教授
	植物ゲノム解析学	オオムギを中心とするイネ科作物の植物形態、種子形質および耐病性について分子遺伝学的解析を行う。	武田 真 教授
	統合ゲノム育種学	作物育種の革新に繋がる遺伝的多様性およびそれを決定する因子を分子、細胞および個体レベルで解析する。	山本 敏央 教授 長岐 清孝 准教授
植物多様性進化学	植物が自然界において進化する中で獲得した環境適応の仕組みを、主に遺伝子レベルで研究する。	池田 啓 准教授	
植物 機 能 開 発 学	遺伝子細胞工学	植物病原菌の病原性並びに植物の病原菌に対する免疫機構に関わる遺伝子の機能解析とその応用に関する教育研究を行う。	一瀬 勇規 教授 山本 幹博 教授 ☆ 松井 英譲 准教授
	ゲノム遺伝解析学	転移因子の動態分析により植物ゲノム変異を網羅的に解析し、遺伝解析や育種技術への応用を行う。	門田 有希 准教授
	植物病理学	植物・微生物間相互作用における植物の自然免疫と病原性発現に関わる分子機構に関する教育研究を行う。	豊田 和弘 教授 能年 義輝 准教授
	植物遺伝育種学	作物遺伝資源の多様性に関する分子遺伝学的研究及び分子遺伝学的手法を用いた育種技術に関する教育研究を行う。	加藤 謙司 教授 ☆ 西田 英隆 准教授
	農産物利用学	農産物の収穫後の生理特性の解明とその流通技術への応用に関する教育研究を行う。	赤木 剛士 准教授
	農産物生理学	農産物の成熟・老化機構など生理学的・生化学的变化に関する教育研究を行う。	久保 康隆 教授 ☆ 牛島 幸一郎 准教授
	作物生産技術学	作物生産技術の開発と体系化並びに生産性向上に関わる生理生態学的諸特性の解明に関する教育研究を行う。	齊藤 邦行 教授 ☆
	果樹園芸学	果樹の生理生態的諸特性の解明と生産機能及び生産技術の開発に関する教育研究を行う。	平野 健 准教授 福田 文夫 准教授
	野菜園芸学	野菜の生産に関わる生理・生態的諸特性の解明と生産システムの開発に関する教育研究を行う。	安場 健一郎 教授 吉田 裕一 教授 ☆
	作物開花制御学	園芸作物の開花生理機構の解明と生産システムの開発に関する教育研究を行う。	後藤 丹十郎 教授 北村 嘉邦 准教授
	作物学	作物生育の生理機構を解明し、食料の安定供給につながる環境に適した作物生産を論じる。	平井 儀彦 教授
	動物 機 能 開 発 学	動物生殖生理学	哺乳動物の生殖に関わる機能制御機構の解明と環境に対応した新たな生殖制御技術開発による効率的動物生産システムの構築に関する教育研究を行う。
動物生殖細胞工学		哺乳動物の生殖細胞と受精卵の機能解析と新しい発生工学技術の開発に関する教育研究を行う。	舟橋 弘晃 教授 若井 拓哉 准教授
動物生理学		動物生産の基礎となる動物の各種生理機能の解析とその応用システムの構築に関する教育研究を行う。	齋藤 昇 教授 ☆ 畑生 俊光 准教授
動物遺伝育種学		動物の遺伝的解析と有用系統の育種及び遺伝学的手法を使った動物集団の遺伝的制御への応用に関する教育研究を行う。	楯妻 隆之 准教授
動物遺伝学		動物の有用形質や疾患に関わる遺伝子の探索と機能の解析及びその制御と利用に関する教育研究を行う。	辻 岳人 准教授
動物栄養学		難消化性糖質や食物繊維の機能性とその発現機構の解明、動物生産の持続性及び環境衛生に関わる微生物学的研究を行う。	西野 直樹 教授 鶴田 剛司 准教授
動物応用微生物学		ヒトや動物の腸内細菌叢解析とその細菌叢の機能解析、摂取した物質 (食事成分) の生体影響や機能に関する教育研究を行う。	森田 英利 教授 荒川 健佑 准教授
生殖補助医療学		ヒト生殖補助医療における培養技術、受精技術、凍結技術、胚選別法などに関する教育研究を行う。	大月 純子 准教授 ◎

*坂本亘教授は、<人間生態学講座>に同姓同名の教授がいますので、連絡をとる際は注意してください。

講座	教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
生物学 ※	分子遺伝学	遺伝情報の伝達と発現、保存性及び細胞機能分化における制御機構の研究	中越 英樹 教授 阿保 達彦 教授
	植物進化生態学	変動する環境への生物の適応進化および種分化に関する研究	三村 真紀子 准教授 中堀 清 助教
	構造生物学	膜タンパク質及びその複合体の構造形成機構、立体構造と機能についての研究	沈 建仁 教授 菅 倫寛 教授 秋田 総理 准教授
	神経制御学	本能行動や高次機能におけるニューロンの生理、形態、分子化学、及びネットワークの研究	坂本 浩隆 准教授 松井 鉄平 准教授
	環境および時間生物学	多様な環境への生物の適応機構についての生理・生態学的及び時間生物学的研究	吉井 大志 教授 濱田 麻友子 准教授
	生体統御学	脊椎動物におけるホルモンなどの液性因子による情報伝達及び生体機能制御機構の研究	坂本 竜哉 教授 竹内 栄 教授 相澤 清香 准教授 秋山 貞 助教 御奥 真穂 助教
	発生機構学	動物、植物において未分化な細胞が機能を持った細胞へと分化し、複雑な形態を有する多細胞生物へと発生する機構の分子レベルでの研究	上田 均 教授 ☆ 高橋 卓 教授 佐藤 伸 准教授 本瀬 宏康 准教授
分析地球惑星化学 ※	分析地球惑星化学	天然試料・実験生成物の元素存在度・同位体比測定・年代測定・構造解析をもとに、地球・惑星の起源・進化を解明する。	牧嶋 昭夫 教授 小林 桂 教授 国広 卓也 准教授 田中 亮吏 教授 北川 宙 助教 POTISZIL Christian 助教
実験地球惑星物理学 ※	実験地球惑星物理学	超高压高温実験による地球内部物質のシミュレートと物性測定、また、分光学的手法によるマグマの構造・物性解析により、地球・惑星の進化とダイナミクスを解明する。	芳野 極 教授 山崎 大輔 准教授 神崎 正美 教授 ◎ 薛 歆宇 教授 山下 茂 准教授 森口 拓弥 准教授 イザワ マシュー 准教授